



第 1233 回例会報告

会長挨拶

会長 三村昌暉

決議 23-34

本日は、社会奉仕委員会の担当例会です。後ほど小林委員長によるご提言があると思います。

2009年第24期の例会で平山隆勇会員がパワーポイントを使用して「決議23-34の改廃をめぐる動き」という卓話をされました。大変分かりやすく、今でも記憶に残っております。決議23-34をあまりご存じない方は、新続要覧の114ページに掲載されておりますのでご一読いただきたいと思います。RIと日本のロータリーでは、この決議に対する立場が違ってきているのが実情です。

日本の大多数のロータリアンは、奉仕の哲学と精神の真髄を述べている唯一の貴重な文献と捉え、心のよりどころとしておりますが、RIでは最近ロータリーを世界最大のボランティア組織と公言し、まるでロータリーは世界最大のNGOかのような捉え方をしているように聞こえてきます。ロータリーは世界組織だからRIの指導に従うべきとのご意見の方もおられることでしょう。

しかし、ロータリーは、自分を磨き人を育て、時には慈善行為、ボランティア活動を行うもので、であるから奉仕の第二部門に職業奉仕が謳われているのだと理解いたします。

諏訪湖ロータリー・クラブ創立時の気概”諏訪の湖を心の鏡として研鑽を深め奉仕の誠を尽くそう“この文言は、私たちの思いを端的に表すすばらしい文言と思います。

◇幹事報告◇

【報告事項】

第2回理事会が開催されました。

①8月例会プログラム

8/04「会員増強について」卓話形式[会員増強特別]
11 夜間家族納涼会「ミラノ・サローネ」にて『カテルナイト』
[クラブ奉仕]

8/18 第26期決算報告・クラブ運営について

うらかめやにおける最終例会のため、植松会員挨拶
[会長・幹事・クラブ奉仕]

8/25 職業に関わる会員卓話2名予定[職業奉仕]

9/01 休会

②8/25 以降の例会場及び事務局は「ぎん月」に決定し

平成 23 年 7 月 28 日(木) 晴れ

ました。備品等の引っ越し 8/20(土)am10:00～
③ビジター東村山 RC 野沢秀夫・礼子ご夫妻

【連絡事項】

①9月8日の3クラブ夜間合同例会は当クラブが担当です。会場・岡谷のマリオ

②10/15(土)-16(日)に開催される地区大会への参加について、出欠を回覧致しますので、できるだけの参加をお願い致します。〈今年の会場は長野市・ホテル国際 21 ホストクラブ・長野 RC〉

③クラブ計画書に訂正箇所・14P 過去3年間の会員増強の推移

退会人数 2009～2010 2名(誤)→3名(正)

2010～2011 1名(誤)→2名(正)

【受領文書】

ウィークリー＝諏訪 RC

2600 地区ガバナーラジオ出演

8/7 14:00～14:55 にSBC放送(ラジオ)にて国連軍縮会議 IN 松本開催記念特別番組「平和を考えよう」(仮)に都筑ガバナーが出演致しますので是非お聞き下さいませよう、ガバナー事務所より連絡がありました。

第 1233 回例会 会員卓話例会

社会奉仕委員会 小林強委員長

地区の奥村職業奉仕委員長が、藤原正彦さんの新聞記事の話をしました。私は武士道精神からくる「惻隱の情」と

■ニコニコ BOX

2 2名 24,000円
累計 128,000円
目標額 130万円
達成率 9.8%

■今週のことば

諏訪の素晴らしいクラブに訪問できて、とても嬉しいです。
お世話になります

野沢秀夫

■出席報告

会員数 34名
出席対象 34名
出席者数 25名
出席率 73.5%
前回修正 88.2%

■次回のプログラム

8月11日
納涼会(夜間家族例会)
クラブ奉仕委員会



2011-2012年度 国際ロータリーテーマ
こころの中を見つめよう 博愛を広げるために
Reach within to Embrace Humanity

ウィークリーの原稿送付先は PR@suwakorc.net です

聞いたことのない言葉を耳にし、調べることにしました。

武士道を調べた結果、武士階層のあいだに発達した道徳律で忠誠、犠牲、信義、廉恥、礼儀、潔白、質素、儉約、尚武、名誉、情愛などを重んじるとあります。惻隠は孟子の言葉で、いたわしく思うこと、あわれみ、とありました。新聞には惻隠は弱者、敗者への共感であり、卑怯を憎む心です。日本人は倫理、合理性、理性を非常に尊重しています。それに加えて惻隠や美意識が重要だとありました。ロータリー精神に近いものと感じました。

佐藤千寿さんは、「ようこそロータリー」の著作者で、御子柴剛衛さんが担当し当クラブがホストを務めた IM の講師として招いた方で、懇親会で We serve, I serve の議論をした事を思い出しました。

日本で2番目のガバナーである板坂孝氏は全国のロータリアンに拳拳服膺すべき3ヶ条を提唱したとあり、その一節が「ロータリアンたる者は徒に慈善事業に憂き身をやつすことなかれ」とあり、この項は読んだ事がありましたので、同じ様な事に興味を持つ人が居るものだと思います。

ロータリーを理解する方法は、関心を持ち、疑問を持つ、自ら勉強することではないでしょうか。

ロータリーの素晴らしさは、100年以上の歴史と世界の優れた経営者たちが創り上げた奉仕理念にあり、正しく理解し、ロータリーと人生はひとつと思える様になりたいものです。

さて、ロータリーの奉仕についておさらいをします。

奉仕の理想、The ideal of service は他人のことを思いやり他人のために尽くすことである云われております。源流セミナーの中でシェルドンの奉仕とは、世に有用な職業に従事している人は全員、奉仕によって品物を作り、それを売っているのです。すべての従業員は、人に役立つものを作り、雇用主はそれを売っているのです。役に立つこととは奉仕の別名なのです。私たちが今まで使ってきた「奉仕」とはかなり異なった定義であり、世に有用な職業に従事して働く行動は、全て奉仕だと考えてもいいように思われます。Service の適切な邦訳を改めて考え直す必要があります。

ロータリーでは「奉仕の理想」について、いかなる場所においても、ロータリー・クラブは一つの基本理念-「奉仕の理想」を持っているそれは他人のことを思いやり、他人のために尽くすことである。

決議 23-34 は、第1条ロータリー哲学の定義、第2条ロータリー・クラブの役割、第3条RIの役割、第4条実践哲学の定義、第5条クラブ自治権、第6条社会奉仕活動実践の指針となっております。決議 23-34 は単なる社会奉仕に対する指針ではなく、ロータリーの綱領に基づくすべての活動に対する指針であると同時に、ロータリーの奉仕理念を現す唯一のドキュメントでもあり、「この哲学は奉仕-「超私の奉仕」の哲学であり、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践倫理に基づくものである。」とロータリーの奉仕理念を定義しております。

さらに、「奉仕するものは行動しなければならない。ロータリアン個人もロータリー・クラブも、奉仕の理念を実践に移さなければならない。」と、ロータリー活動は理念の提唱だけではなく、実践活動が伴わなければならないことが明記されています。

超私の奉仕、Service above self は、人道的奉仕活動のモットーで、奉仕の理念を団体で学ぶこと

奉仕の実践を団体で示すこと、奉仕活動の実践を個人で行うこと、ロータリーの奉仕理念と実践を一般の人たちに受け入れてもらうこととなっており、ロータリーの奉仕理念の一つで、一般的に社会奉仕活動の標語として使われていま

す。決議 23-34 によって

The ideal of service は Service above self である、即ちロータリーの奉仕理念は、超私の奉仕であると規定され、さらに Official directory において奉仕の理想とは他人のことを思いやり、他人のために役立つとすることである。」と定義されています。

この三段論法によって、現在の Service above self は他人のことを思いやり、他人のために奉仕するいわゆる社会奉仕や世界社会奉仕の活動を推奨するモットーだと考えることができます。

ロータリーの実践的倫理原則、He profits most who serves best は、「最もよく奉仕する者最も多く報いられる」このモットーはシェルドンがロータリーのために考えついたフレーズではなく、ロータリーが創立するより以前に、シェルドン・ビジネススクールで教えていたカリキュラムの一節であり、それをロータリーが借用していたに過ぎないことがわかりました。

この経緯を考えても、社会奉仕の理念ではないことが解ります。ビジネス・スクールで奉仕活動を教えることはないからです。しかし、この profits を利益ではなく人格とか品性に置き換えれば、人の為に尽くせば仁徳が備わるとも解釈できます。

本日の本題に入ります。

23-34 と 92-286 の冒頭には、社会奉仕とは、ロータリアンひとりひとりの個人生活、事業生活、社会生活に「奉仕の理想」を適用することを奨励、育成することである。23-34 では、奉仕の理想の適用を実行することについては、多くのクラブが会員による奉仕にその機会を与えるものとして、さまざまな社会奉仕活動を済めてきている。92-286 では、この奉仕の理想の適用を実践する中で、各ロータリー・クラブはさまざまな社会奉仕活動を開発し、会員に奉仕の多大なる機会を与えてきた。

これによれば、クラブは、ロータリアンに奉仕活動を促す手本を示さなければならないとなっています。同じく地域住民に行動を促す事業を行うべきと云うことでもあります。

私たちは、会員のことや地域住民が取組可能かどうかを検討したと云う記憶は余りありません。

もしその方法がロータリーの目指す処だとすれば、クラブで手本を示し、会員や地域の人たちが一斉に活動を開始することになります。結果は大きな活動となり、大きな効果も得られる筈です。

これが、皆さんに問いかけたい本日のテーマです。クラブの都合で自由に事業を決めて良いか、誰もが取り組める内容にするか、考えをお聞きます。

■ビジターをお迎えしました

東村山ロータリークラブ、野沢秀夫・礼子御夫妻のご訪問をいただきバナー交換をいたしました。

「唱歌の時間」夏の思い出斉唱の際、奥様の素晴らしいソプラノボイスにびっくりしました。原村の別荘にご滞在とのこと。ぜひまたお出かけください。

